

第2学年2組 国語科学習指導案

平成30年9月28日(金) 5校時

授業者 附属新潟小学校 指導教諭 里村 穰
会場 2年2組教室

1 単元名

“一番素敵”を紹介しよう

—教材文「きつねのおきゃくさま」(『みんなと学ぶ 小学校こくご』二年上・学校図書) —

2 本単元の価値

本単元は、新学習指導要領における第1学年及び第2学年「1目標(3)、2内容〔知識及び技能〕(1)カ(2)ア、〔思考力・判断力・表現力等〕C読むこと(1)イ・エ(2)イ」を受けて設定する。

1 目標

(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

〔知識及び技能〕

(1)カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。

(2)ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

〔思考力・判断力・表現力等〕C 読むこと

(1)イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

(2)イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

本単元で扱う教材文「きつねのおきゃくさま」は、「きつね・ひよこ・あひる・うさぎ・おおかみ」の5人が登場する物語文(※別紙資料参照)である。この教材文を扱う本単元では、『お話しポスター』をつくり、『きつねのおきゃくさま』を1年生に紹介する」という言語活動を設定する。「お話しポスター」とは、上段に登場人物とあらずじ、下段に主人公(きつね)の一番素敵だと思う様子を伝える絵と紹介文とを書く言語活動に対応させた成果物である。

このような言語活動を行う本単元には、主に次の二点で価値がある。

一点目は、目的に応じて読もうとする態度を育成できることである。「お話しポスター」は、登場人物、あらずじ、主人公の一番素敵だと思う様子の紹介という構成としている。子どもは、各欄を作成するために、目的に応じて読もうとする態度を発揮して教材文を読む。そして、完成した成果物を基に伝え合い、自らの学びを振り返ることで、発揮した態度を自覚することができる。

二点目は、叙述を基にした情報と情報との関係に関する知識・技能や、登場人物の行動の理由を想像する力等の資質・能力を育成できることである。設定した言語活動には、主人公の一番素敵だと思う様子を紹介する活動を含めている。主人公の一番素敵だと思う様子をとりえるためには、その人物の行動に関する言葉を手掛かりに考える。その際に子どもは、前述の資質・能力を発揮してとらえていく。そして、完成した成果物を基に伝え合い、自らの学びを振り返ることで、前述の資質・能力を自覚することができる。

このように、本単元で育成する資質・能力を子どもに発揮、自覚させることができるところに、本単元の価値がある。

3 本単元で目指す姿

複数の言葉に関係付けて読み、きつねの一番素敵だと思う様子をとりえる子ども

具体的には、文脈に即したきつねの行動に関する言葉の意味に着目して、きつねの行動に関する言葉ときつねの様子とを関係付けて考えるという「見方・考え方」(以下、「**言葉による見方・考え方**」)を働かせ、きつねの行動の理由を想像する力(②**思考力・判断力・表現力**)等を発揮して、きつねの行動に関する複数の言葉を根拠にきつねの一番素敵だと思う様子をとりえる子ども。

4 本単元で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全10時間

単元カード参照

6 指導の構想

子どもは、前単元「一番お気に入り」を紹介しよう(教材文:お手紙)(7月実施)で、叙述を基に登場人物の行動の理由を想像する力(②**思考力・判断力・表現力**)等を発揮し、登場人物、あらずじ、一番お気に入りの登場人物を紹介する「お話しリーフレット」を作成した。

本単元において、設定した言語活動を通して、育成する資質・能力の定着を図る。

一次では、まず、設定した言語活動を一学年担任からの依頼という形態で提示し、「お話しポスター」の形式を示す。これにより、言語活動への意欲を高める。その後、教材文を音読させ、登場人物とあらずじとを問い、内容の大体をとらえさせる。ここで、「お話しポスター」上段に、登場人物とあらずじとを記述させる。

次に、きつねの一番素敵だと思う様子、根拠を問い、「お話ポスター」下段の下書きを書く場を設定する。子どもは、きつねの一番素敵だと思う様子、その根拠を表出する。例えば、「おおかみと勇敢に戦うところです。『じつに、じつに、いさましかったぜ』という言葉から、そう思いました」などである(C0)。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

選ばれた様子、その根拠となる言葉と根拠とならない言葉とを例示し、感じた疑問とその理由とを問う。

問いをもたせ、学習課題の設定へとつなげるための働き掛けである。まず、選ばれた様子(ひよこ達を大切に育てた、おおかみと勇敢に戦った)、その根拠となる言葉(「やさしくたべさせた」「じつに、じつに、いさましかったぜ」とその根拠とならない言葉(「こころの中でやりとわらった」「ふとらせてからたべよう」とを例示する。子どもは、選ばれた様子とその根拠とならない言葉との整合に疑問を感じ、「どうしてその言葉なのか。その言葉では、一番素敵などころが分からないのではないか」などと、問いをもつ。

次に、感じた疑問とその理由とを問う。これにより、「言葉による見方・考え方」を引き出し、学習課題の設定へとつなげる。子どもは、例えば、「『こころの中でやりとわらった』という言葉では、ひよこ達を大切に育てたことが分からないから」などと、「言葉による見方・考え方」を働かせ始める。このような子どもの発言をまとめ、「きつねの一番素敵などころが分かる言葉はどれか」という学習課題を設定する。

働き掛け2

例示した根拠となる言葉を探り上げて根拠となる理由を問うた後、学習の進め方を問う。

見通しをもたせるための働き掛けである。

まず、例示した根拠となる言葉を探り上げて根拠となる理由を問う。子どもは、例えば、「『やさしくたべさせた』は、きつねがひよこ達を大事にして食べ物を食べさせていることが分かるから」などと考える。このような理由をまとめ、きつねの行動に関する言葉ときつねの様子とがつながっていることを学級全体で確認することで、「言葉による見方・考え方」を明確にする。

その後、学習の進め方を問う。子どもは、きつねの行動に関する言葉から、きつねの行動の理由を考えようとする。そして、「そのために、もう一度読もう」などと、きつねの一番素敵の様子をとらえるために教材文を読もうとし(③態度)、課題解決の見通しをもつ。

働き掛け3

個人で読む場を設定した後、観点を提示して分かったことを伝え合う場を設定する。

必要な言葉を収集、整理させるための働き掛けである。

まず、使いたいツールを確認、配付して、個人で読む場を設定する。子どもは、きつねの行動に関する言葉を見付け、その言葉を基に行動の理由を考えて、それらをウェビングマップに書き出す(②思考力・判断力・表現力、ツール活用能力)。

次に、観点(見付けた言葉・その言葉から考えたこと)を提示して、分かったことを伝え合う場を設定する。これにより、解釈の交流を促し、きつねの一番素敵の様子をとらえるのに必要な言葉を整理させる。子どもは、例えば、「『かみさまみたいにそだてた』という言葉です。きつねがひよこ達のことをとても大切にしていると考えました」「『いや、まだいるぞ』という言葉です。きつねが大切にしていたひよこ達を守ろうと思っていると考えました」などと、互いの解釈を交流し(協働性)、きつねの一番素敵の様子を紹介するために必要な言葉を整理する。

働き掛け4

紹介するために必要な言葉を問い、紹介文を書く場を設定する。

必要な言葉を判断して課題解決させるための働き掛けである。

「きつねの一番素敵などころを紹介するために、お話の中のどの言葉とどの言葉を選ぶか」と問い、紹介文を書く場を設定する。子どもは、収集、整理した言葉から、例えば、「『かみさまみたいにそだてた』という言葉と『いや、まだいるぞ』という言葉にしよう。大切にしていたひよこ達を守ろうとするきつねの様子が分かるから」などと、必要な言葉を判断する(①知識・技能)。そして、きつねの言動に関する複数の言葉を根拠に、きつねの一番素敵だと思う様子を紹介文に書き表す。

こうして、**複数の言葉**を関係付けて読み、**きつねの一番素敵だと思う様子**をとらえる子ども(Cn)となる。

働き掛け5

ペア発表会、振り返りの場を設定した後、一番素敵だと思う様子をとらえることができた要因を問う。

発揮した様々な資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

まず、ペア発表会を設定して互いに成果を感じさせた後に、振り返りの場を設定して学習過程を辿らせ、感じた成果を価値付ける。

その後、一番素敵だと思う様子をとらえることができた要因を問う。子どもは、ここまでの自分の学びを振り返り、例えば、「きつねの一番素敵などころが分かる言葉をまとめることができた」(①知識・技能)、「きつねの言ったりした言葉から、どうしてきつねがそうしたのかを考えた」(②思考力・判断力・表現力)、「きつねがどうしてそうしたのかを考えるために読んだ」(③態度)、「ウェビングマップを使って言葉を集めたりつなげたりすることができた」(ツール活用能力)などと、発揮した様々な資質・能力を自覚する。

7 本時の構想

(1) 本時のねらい (本時 7/10時間目)

きつねの行動に関する言葉を基にきつねの行動の理由を想像する力 (②思考力・判断力・表現力) や、情報と情報との関係に関する知識・技能 (①知識・技能) 等を発揮して、きつねの一番素敵だと思ふ様子をとりえることができる。

(2) 展 開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 班ごとに、教材文の音読練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は、わたしから始めるね。 ・つかえずに、すらすらと読めたね。 ・学習のめあては、「きつねの一番素敵なところが分かる言葉はどれか」です。 	<p>音読練習の場を設定した後に、学習課題の確認をする。</p> <p>○指示「今日も、音読練習から始めます。班で、丸読みをしましょう」</p> <p>○指示「学習のめあてを確認しましょう」</p> <p>※前時までに設定した学習課題を掲示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎きつねの一番素敵なところが分かる言葉はどれか</p> </div>
<p>2 きつねの一番素敵な様子を紹介するために必要な言葉を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やさしくたべさせた」です。 ・この言葉から、きつねがひよこ達を大事にして食べ物を食べさせていると考えました。 ・どうしてかという、「やさしく」なので大事にしていることが分かるし、「たべさせた」なので育てていると考えたからです。 ・付け足しで、きつねがひよこ達を大事にしていることは、「しんせつだった」という言葉からも分かると思います。 ・どうしてかという、「親切にしている」ということは、とっても大事にしていることだと思うからです。 ・大事にしていることは、「かみさまみたいにそだてた」という言葉からも分かると思います。 ・どうしてかという、「かみさまみたい」がすごく大事にしていると思うからです。 ・「五回もつぶやいた」です。 ・この言葉から、きつねがひよこから言われてとってもうれしくなっていると考えました。 ・付け足しで、「うっとりして、気ぜつしそうになった」も、うれしい気持ちになっていると思います。 ・どうしてかという、「気絶しそうになるって、すごくうれしい気持ちになっていると思うからです。 	<p>観点を提示して分かったことを伝え合う場を設定する。 【働き掛け3-②】</p> <p>○説明「前の時間に、きつねの一番素敵なところが分かる言葉がどれかを探していましたね」</p> <p>○指示「では、きつねの一番素敵なところを紹介するために見つけた言葉、その言葉から考えたことを教えてください」</p> <p>※観点を提示する。 (提示する観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた言葉 ・その言葉から考えたこと <p>○発問「見つけた言葉は、何ですか」</p> <p>○発問「この言葉から考えたことは、何ですか」</p> <p>※発言に対する理由を問い返す。 補助発問 「どうして、そう考えたのですか」</p> <p>※付け足しの発言を確認する。 補助発問 「○○さんの考えに付け足す人はいますか」</p> <p>※発言が出尽くしたら、別の言葉について、同様に問うていく。</p> <p>※黒板に、発言を整理して板書する。</p>

- ・「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ」です。
- ・この言葉から、ひよこ達をおおかみから絶対を守ろうと思っていると考えました。
- ・どうしてかという、と、「いるぞ」と強く言っている感じがするからです。
- ・付け足しで、絶対を守ろうと思っていることは、「とび出した」という言葉からも分かると思います。
- ・どうしてかという、と、「とび出す」って、すごく急いでいる感じがして、絶対を守ろうという気持ちが分かるからです。
- ・だったら、「ゆう気がりんりんとわいた」という言葉も、ひよこ達を絶対を守ろうという強い気持ちが分かると思います。
- ・どうしてかという、と、「りんりん」って、鈴の音が鳴るみたいで、すごくたくさん勇気が出てきている感じがするからです。

★国語科②・協働性

3 きつねの一番素敵な様子を紹介するために必要な言葉を判断する。

- ・わたしは、「やさしくたべさせた」と、「かみさまみたいにそだてた」にします。
- ・理由は、どちらの言葉も、ひよこ達を大事にしていることが分かるからです。
- ・ぼくは、「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ」と、「とび出した」にしよう。
- ・理由は、ひよこ達を絶対を守ろうというきつねの強い気持ちが分かるからです。
- ・わたしは、「かみさまみたいにそだてた」と、「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ」にします。
- ・理由は、大事にしていたから絶対を守ろうとしていることが分かるからです。

★国語科①

紹介するために必要な言葉を問う。

【働き掛け4-①】

- 発問「きつねの一番素敵なところを紹介するために、あなたなら、お話の中のどの言葉とどの言葉を選びますか」

※ワークシートを配付し、書き方を説明する。
ワークシート①欄=選んだ言葉
ワークシート②欄=選んだ理由

4 きつねの一番素敵だと思ふ様子を紹介文に書き表す。

- ・きつねの一番素敵なところは、大事に育てていたひよこ達を絶対を守ろうとして、おおかみと戦うところです。それは、「かみさまみたいにそだてた」という言葉と、「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ」という言葉から思いました。どうしてかという、と、「かみさまみたい」でとっても大事にしていたことが分かるし、「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ」で絶対を守ろうとするきつねの強い気持ちが分かるからです。

紹介文を書く場を設定する。

【働き掛け4-②】

- 指示「きつねの一番素敵なところを紹介する紹介文を書きましょう」

※ワークシートを配付し、書き方を説明する。(説明)

次の3点を入れて書くように説明する。

- ・きつねの一番素敵だと思ふところ。
- ・それは、どの言葉から思ったのか。
- ・どうして、そう思ったのか。

(3) 評価

- きつねの行動に関する言葉を基にきつねの行動の理由を想像する力を発揮して、教材文の中から見付けた言葉と、その言葉から分かるきつねの行動の理由とを表出している。(ツールの記述、発言)
- 情報と情報との関係に関する知識・技能を発揮して、きつねの一番素敵な様子を紹介するために必要な言葉を判断している。

(ワークシートの記述)